

# Israel Monthly Trends

## 2025年12月

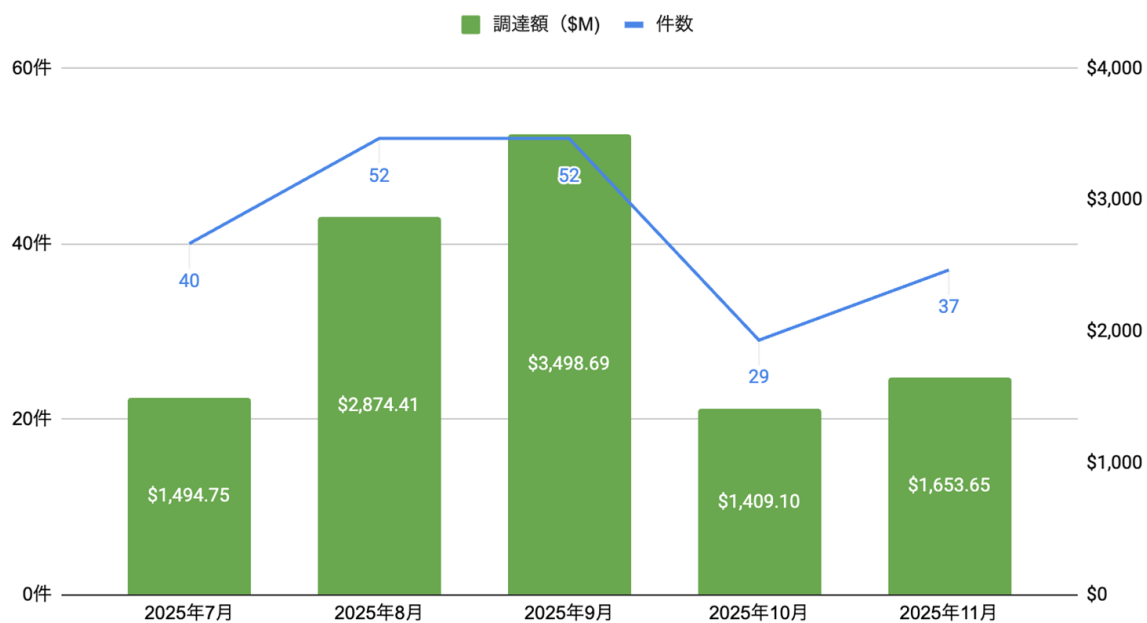
### 目次

1. イスラエルの現在の状況_12月	p.2
2. 今月の注目テーマ： IoT	p.3
3. IoTに関連するスタートアップ	p.4

## 1. イスラエルの現在の状況\_12月

2025年10月16日から2025年11月15日におけるスタートアップへの資金調達動向は、案件数が37件で、調達額の合計は16億5,365万ドルであった。前回（9月16日から10月15日）の資金調達に比べて、案件数・調達総額ともに増加し、市場の動きは再び強さを取り戻した。

### イスラエル・ハイテク企業 月別資金調達推移



本レポートの毎月のデータ収集期間は、前月16日から当月15日までとなる。

2025年10月後半から11月前半にかけては、エンタープライズソフトウェア・インフラ分野が引き続き市場を牽引した。Armis社がシリーズEで4億3,500万ドル、また、Deel社もシリーズEで3億ドル、Navan社がセカンダリー・ディールで1億7,300万ドル、Wonderful社がファーストラウンドで9,000万ドルを調達し、これらの大型案件が市場全体の資金流入を力強く押し上げた。

## 2. 今月の注目テーマ：IoT

IoT (Internet of Things) とは、センサーが取得する環境・機器データを通信網で連携し、遠隔管理や自動制御を行う仕組みである。特に、エッジコンピューティングは、データ発生源で処理することで遅延を抑え、即時性と安全性を高める重要な技術である。イスラエルでは、ナノ材料による高感度センサー、レーダーオンチップ、太陽電池を内蔵したIoTデバイスなどが実用化され、幅広い領域で応用が進んでいる。

### 主要な取り組みと成果

イスラエルでは、センサー技術とエッジコンピューティングの高度化が産業基盤の強化に直結する重点領域と位置付けられている。材料科学やフォトニクスを取り込んだ開発が進み、ナノ材料を用いた高感度センサー、柔軟基材に組み込むデバイス、積層造形を活用した構造一体型センサーなど、用途に応じて最適化された技術が整備されつつある。また、レーダーオンチップをはじめとする集積デバイスの普及により、現場近傍でのデータ処理精度が向上し、リアルタイム性を要する産業分野での有効性が高まっている。

主要企業の取り組みとして、FeelIT Technologies社は印刷ナノ材料センサーを活用し、圧力や温度の微細な変化を検知するソリューションを提供している。既存設備に貼付するだけで導入できる利便性が強みであり、異常兆候の早期把握による予知保全の高度化に寄与している。Vayyar Imaging社は、多数のトランシーバーを一体化したレーダーオンチップにより、壁越し検知や三次元マッピングを可能にしている。光条件に左右されにくい特性を備えており、工場の安全管理や医療施設でのモニタリングなど、多様な環境で安定したセンシングを提供している点が優位性である。

農業分野では、SeeTree Systems社が衛星・ドローン・地上センサーのデータを統合し、樹木単位で状態を解析するプラットフォームを展開している。現場に近い層で推定処理を行う構成により、施肥や農薬投入の判断精度が向上し、農地運用の効率化につながっている。SolChip社は、太陽電池と電源管理回路を一体化した小型電源を開発し、長期稼働が求められるIoT機器の電力供給を支えている。電池交換が不要であることを特長とし、農業やインフラ監視など、広範囲での長期運用を前提とする領域で採用が拡大している。

### 今後の展望

今後は、センサー性能の向上とエッジAIの融合が進み、医療、環境監視、産業保全、農業などの分野で活用範囲を拡大すると見込まれる。国家的には、バイオデバイスやスマート材料を対象とした研究拠点が整備され、エッジ処理を前提とした機能材料や組込み技術の開発が加速している。省電力化や通信最適化の進展により、IoTシステムの自律運用がさらに進み、イスラエルは国際的な開発拠点としての役割を強めると考えられる。

出典：<https://www.continental.com/en/press/press-releases/start-up-feelit/>

## 3. IoTに関連するスタートアップ

- **FeelIT Technologies Ltd.**

(<https://feelit.tech/>)



FeelIT Technologies社は、印刷ナノ材料を用いた高感度センサーを開発し、設備の状態監視を効率化するソリューションを提供している。既存のポンプ、配管、バルブなどに後付けできる構造が特長であり、微細な歪みや温度変化をリアルタイムに検知できるため、異常兆候の早期把握や予知保全に有効である。さらに、エッジ処理によりデータ分析の負荷を低減し、クラウド基盤との連携で保守計画の最適化が可能となる。製造業、石油化学、インフラなどの分野で導入が進んでいる。

- **TriEye Ltd.**

(<https://trieye.tech/>)



TriEye社は、短波赤外線（SWIR）を活用した低コストかつ高性能イメージング技術を開発する企業である。独自プロセスにより量産性を高め、霧・雨・夜間といった視界が悪い環境でも高い認識性能を維持できる点が特長である。ADASや産業機器、セキュリティ用途で活用が広がっており、自動車分野では悪条件下でも安定した検知が可能なセンサーとして採用が増えている。今後はロボティクスや自動化装置への応用も見込まれ、利用領域はさらに拡大すると考えられる。

- **Sol Chip Ltd.**

(<https://sol-chip.com/>)



Sol Chip社は、太陽電池と電源管理回路を単一チップに統合した自律型電源ソリューションを提供している。日照を活用して長期間連続稼働でき、電池交換が不要な点を強みとして、農業や環境モニタリングなど広域に分散したIoTシステムに適している。センサーおよび通信モジュールと組み合わせることで、土壌状態監視や灌漑制御の効率を高め、コスト削減にも寄与する。さらに、長期運用を前提とするインフラ監視分野でも採用が拡大している。